

<第48回調査>

2013年05月27日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2013年05月14日(火)13:00～2013年05月21日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。
今回の有効回答数は220件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

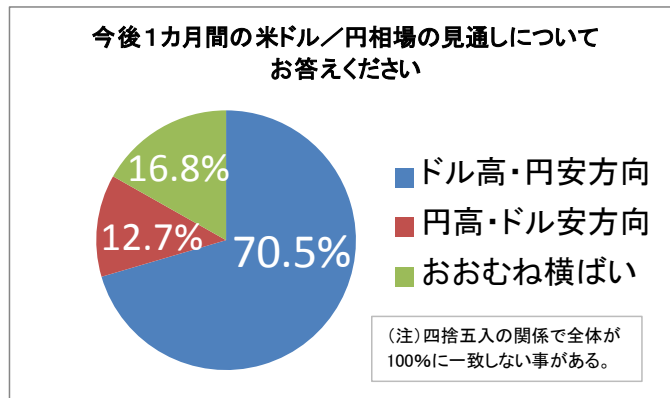
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第48回調査結果略報：米ドル/円、強気予想が過去最大に】

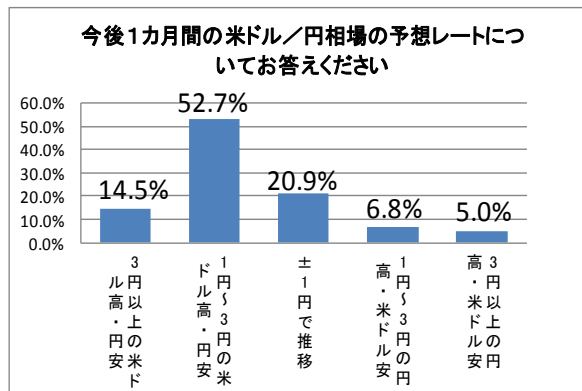
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が70.5%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は12.7%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+57.8%ポイントとなり、前月(+44.0%ポイント)からプラス幅が大幅に拡大し、8カ月連続でプラス(米ドル強気・円弱気)を維持。プラス幅としては過去最大を記録した。調査期間中のドル/円相場は101.26円~103.30円のレンジで上昇はしているが、103.00円前後では上値の重さが感じられた。ただ、米国要人発言などから米量的緩和の早期縮小・停止観測が拡がり、市場では先行き一段の米ドル高・円安を見込む声優勢となった。※過去の 米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円~3円のドル高・円安」が52.7%と最も多く、次いで「±1円で推移」が20.9%、「3円以上のドル高・円安」が14.5%、「1円~3円の円高・ドル安」が6.8%、「3円以上の円高・ドル安」が5.0%の順となった。前月に続き、 Histogramの形状は大きく米ドル高・円安側に傾いており、問1の結果と整合的である。ただし、前月との比較では「1円~3円のドル高・円安」が大幅に増加(44.2%→52.7%)したのに対し「3円以上のドル高・円安」が減少(19.2%→14.5%)している点が興味深い。引き続き米ドル高・円安予想は維持しているものの、心理的節目の100円を突破したことで、そろそろ上昇ペースが落ち着くのでは、と考えるFX投資家が増えてきたものと考えられる。

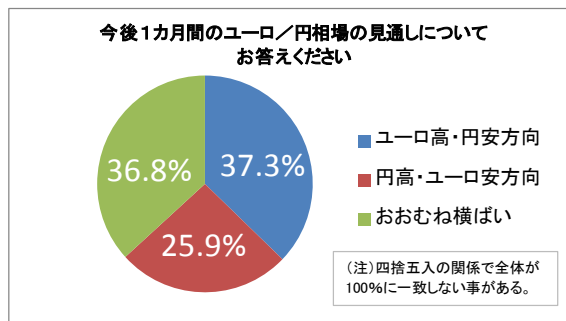


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

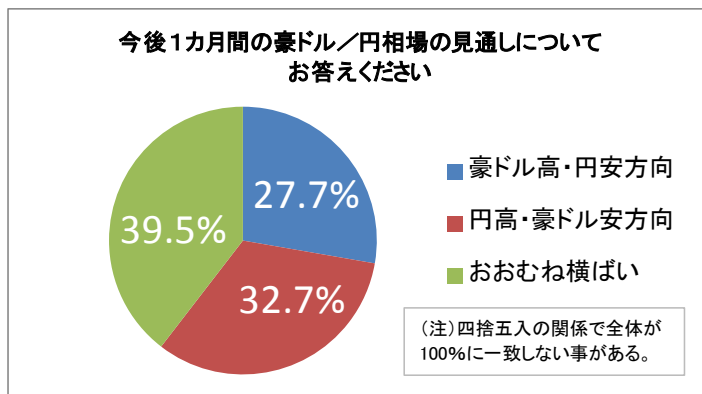
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が37.3%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が25.9%となった。この結果「ユーロ円予想DI」は+11.4%ポイントとなり前回(+23.7%ポイント)からプラス幅が縮小。一方、「おおむね横ばい」と答えた割合は大幅に増加(24.7%→36.8%)した。調査期間中のユーロ/円相場は独自材料に乏しく、全般的に米ドル高方向で進む中でユーロ/ドルの下落と米ドル/円の上昇が相殺し合い、131.18円から132.78円のレンジで方向感に乏しい状態だった。この方向感のなさが「おおむね横ばい」予想の大幅増の背景とみる。ただ、欧州債務問題が落ち着いている中でユーロを特段売るムードではなく、「ユーロ高・円安方向」への期待は維持されているようだ。 ※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が27.7%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は32.7%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は-5.0%ポイントと、2012年5月以来1年ぶりのマイナスとなった。調査期間中の豪ドル/円相場は101.57円からジリ安となり、一時は99.58円まで値を下げた。豪中銀(RBA)が利下げを決定し、さらに今後の追加利下げの可能性を示唆したことで、豪ドルに対する弱気な見通しが続いており、これがDIマイナス化の背景にあるとみる。ただ、今回最も回答割合が高かったのは「おおむね横ばい」予想(前回22.7%)だ。ドル/円の上昇予想が大勢を占める中で、これが豪ドルの対円での下落を相殺するのでは、との期待が高いためと考えられる。 ※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

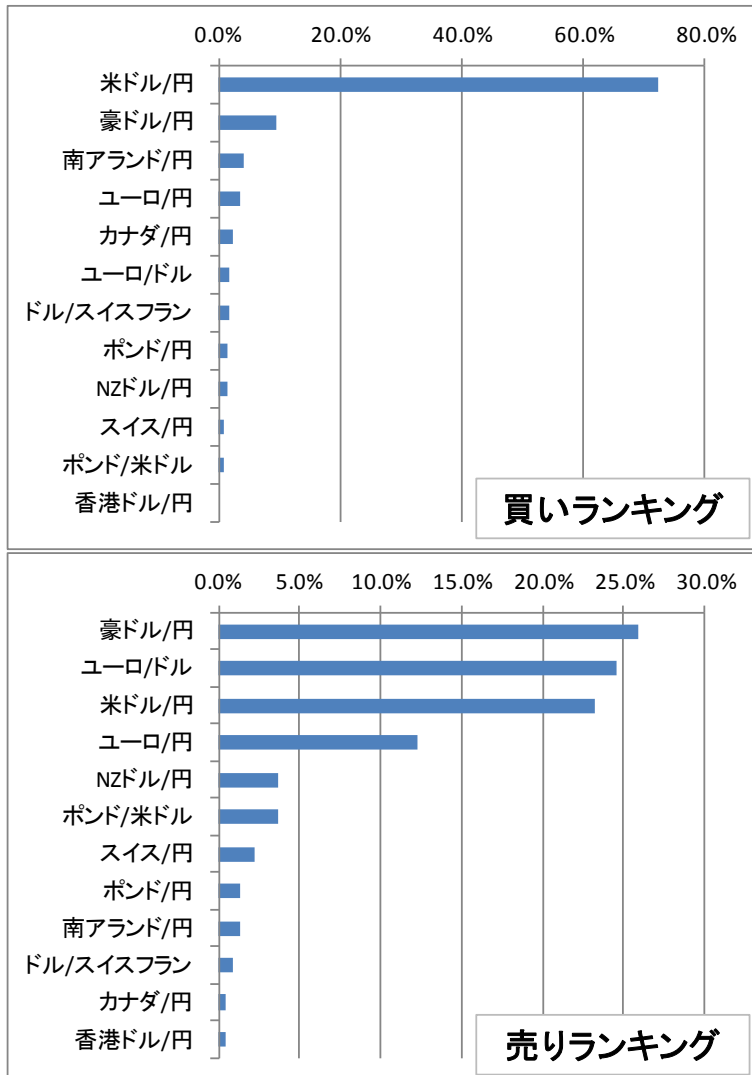


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

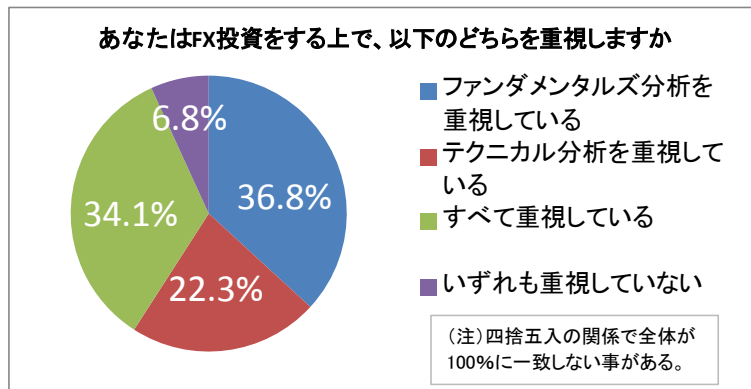
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(72.3%)、2位豪ドル/円(9.5%)、3位南アランド/円(4.1%)、4位ユーロ/円(3.6%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル/円(25.9%)、2位ユーロ/ドル(24.5%)、3位米ドル/円(23.2%)、4位ユーロ/円(12.3%)、となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、前月に続いて米ドル/円が圧倒的で、前回(56.3%)よりも大幅に回答割合を増やすこととなった。米景気回復期待を背景とする米ドル主導の相場になったことで、FX投資家の関心が米ドル/円とストレートドルの狭間で動きが出にくくなってきたクロス円から米ドル/円にシフトしているものと考えられる。一方、売りで注目されている通貨ペアの1位豪ドル/円が入ってきたのは、豪中銀(RBA)の金融政策スタンスがハト派側に傾いている点が大きいと考えられる。また、2位にユーロ/ドルがつけている点については、米ドル/円が「買い」で圧倒的な人気を誇った背景とも言える「米ドル高期待」があるものと考えられる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

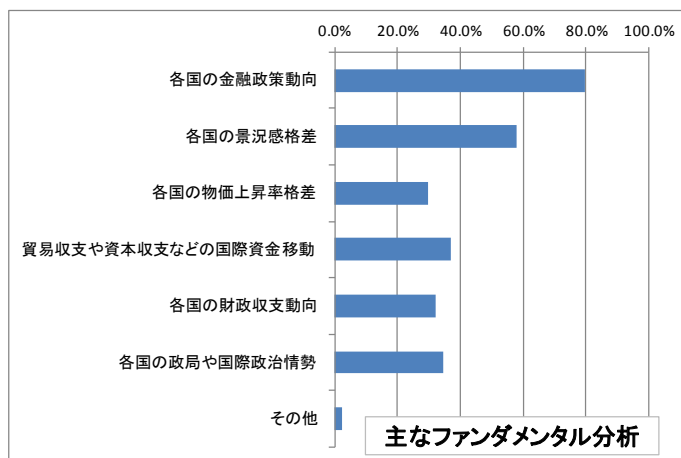
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視」と答えた割合が36.8%であったのに対し「テクニカル分析を重視」と答えた割合が22.3%という結果となった。前月調査よりもファンダメンタルズ分析重視派(前回26.5%)とテクニカル分析重視派(同26.0%)の格差が拡大している。米国の景気回復期待から量的緩和の早期縮小・停止観測が意識される中で、一段とファンダメンタルズを重視する風潮が強まっているものと考えられる。また、米ドル高がほぼ一本調子で進む中でテクニカル指標の分かりやすいサインが出にくくなっていることも背景にありそうだ。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか? (いくつでも)

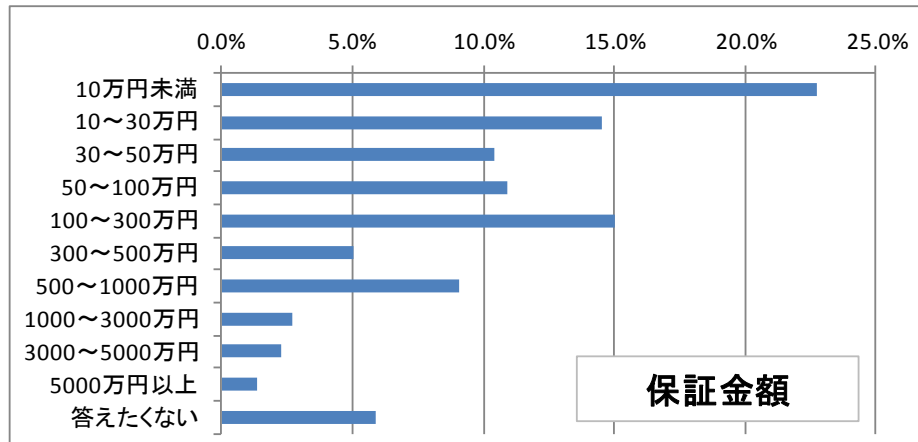
「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(79.5%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(57.9%)」、「貿易や資本収支等国際資金移動(36.8%)」、「各国の政局や国際政治情勢(34.5%)」、「各国の財政収支動向(32.2%)」、「各国の物価上昇率格差(29.8%)」の順に続いた。「各国の金融政策動向」を挙げた向きは前月調査の81.2%からやや低下したものの、依然として圧倒的な支持を集めている。米国の量的緩和の早期縮小・停止観測や、欧州中銀による中銀預金金利のマイナス金利化など、中央銀行による政策変更期待は高く、これがこの回答結果の背景にあると考えられる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

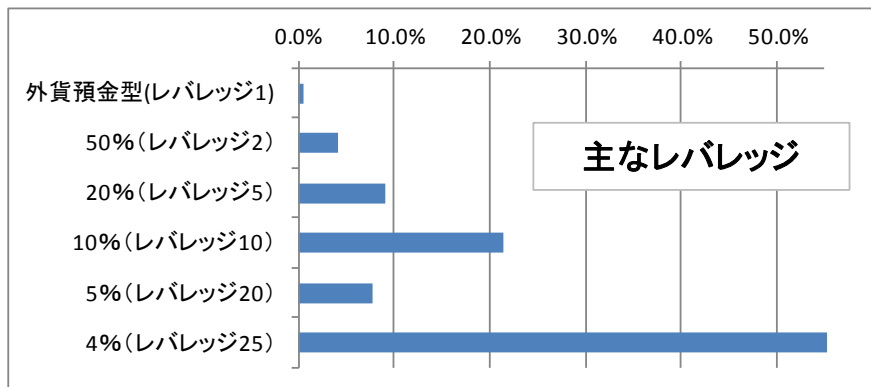
問8: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が22.7%と最も多く、以下「100～300万円(15.0%)」、「10～30万円(14.5%)」、「50～100万円(10.9%)」、「30～50万円(10.5%)」と続いた。前月調査と比べ、順位や回答割合に顕著な変化は見られなかったが、10万円未満の少額投資がやや回答割合を増している(前回20.2%)点を見ると、アベノミクスで盛り上がる中で新規のFX投資家が少額で参入し始めている可能性がある。依然としてドル/円のドル強気・円弱気見通しが圧倒的な中で、新規参入が増えていくかどうか、今後の趨勢が注目される。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が57.3%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が21.4%、「20%(レバレッジ5)」が9.1%と続き、以下「5%(レバレッジ20)」が7.7%、「50%(レバレッジ2)」が4.1%と続いた。最大レバレッジである4%(25倍)を主に活用する向きが引き続き回答者の半数を超えており、かつ前回(52.5%)よりも拡大している。FX投資家の積極的な売買姿勢が一段と強まったことが窺える結果となった。なお、今回調査に回答を寄せたFX投資家が主に活用するレバレッジの平均は18.5倍と、前月調査の17.2倍から上昇した。

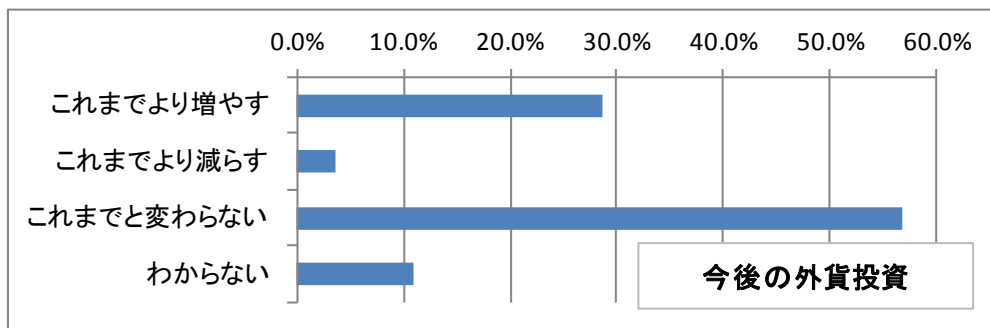


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

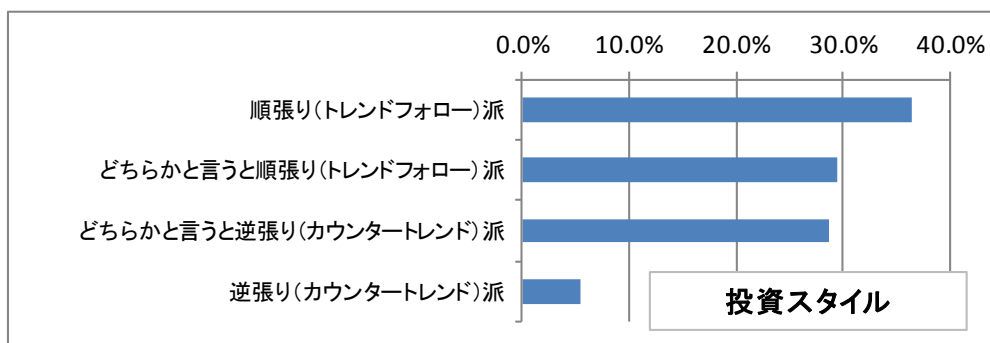
問10: 今後の外貨投資(FX、外貨預金、外貨投信など)の方針について最も当てはまるものは何ですか？(ひとつだけ)また、その理由をコメント欄にご記入ください

今月の特別質問項目として、今後の外貨投資(FX、外貨預金、外貨投信など)の方針について最も当てはまるものは何ですか？と尋ねたところ「これまでと変わらない(56.8%)」が最も多く、順に「これまでより増やす(28.6%)」、「わからない(10.9%)」、「これまでより減らす(3.6%)」と続いた。ドル/円が昨年末から上昇トレンド入りしていることで、既に投資を行っているFX投資家としては、やや上昇の勢いが落ち着きつつある現段階では「スタンス維持」が大勢を占めている点が浮き彫りとなった。また、「自分の投資スタイルを維持する」との声も聞かれており、相場の状況と関係なく、独自のペースを継続しようとする冷静な声も目立った。ただ、「これまでより増やす」と回答した層については米ドル/円の強気見通しなどを根拠に積極的にリスクを取る意向を示す回答が目立っており、外貨投資に対する意欲が高いことを窺わせる結果となった。



問11: あなたのFX投資のスタイルは、いわゆる「順張り」「逆張り」のどちらでしょうか(ひとつだけ)

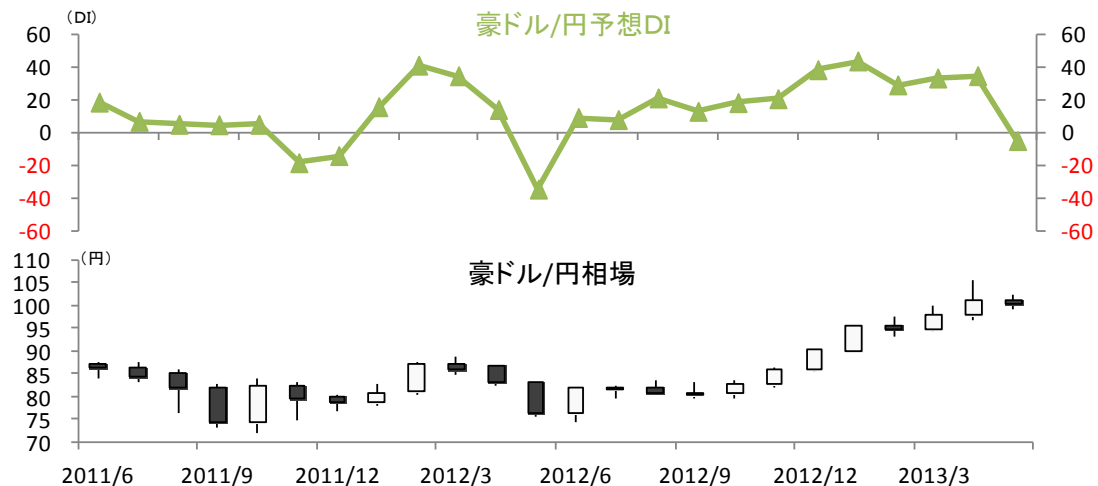
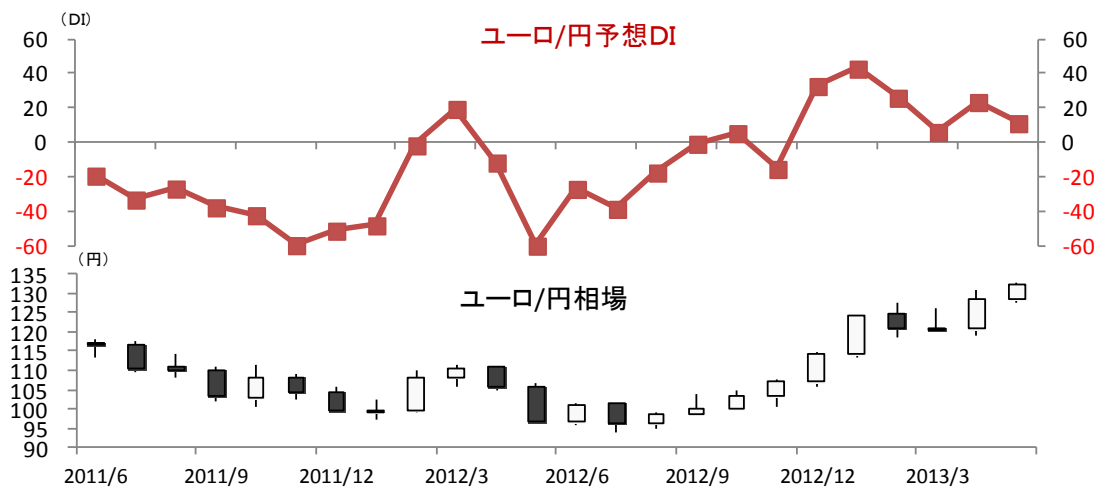
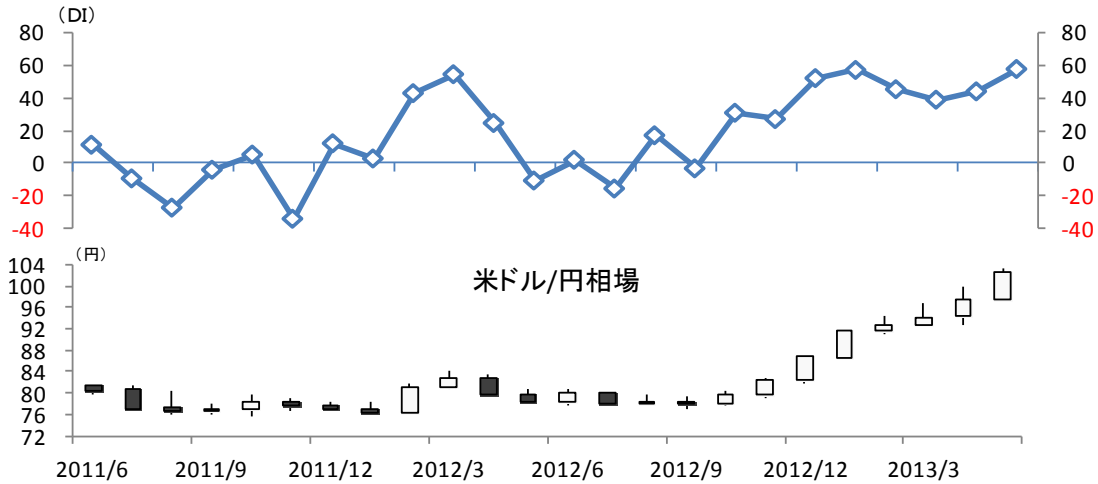
今月のもうひとつの特別質問項目として、あなたのFX投資のスタイルは、いわゆる「順張り」「逆張り」のどちらでしょうか(ひとつだけ)と尋ねたところ、「順張り」が36.4%、「どちらかと言うと順張り」が29.5%、「どちらかと言うと逆張り」が28.6%、「逆張り」が5.5%と、「順張り派」が過半数(65.9%)もの回答割合を占める結果となった。第23回(2011年5月)に同様の調査をした際には順張り派が60.2%、逆張り派が39.8%という結果であり、比較するとFX投資家層の順張り派へのシフトが読み取れる。昨年末以降の円安トレンドによって、逆張りではなく順張りに投資スタイルを転換したFX投資家層が少なくなかったと考えられる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第48回目となりました。調査開始から4年が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握を進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2011年	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
2012年	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.2	38.7	39.2	-0.6	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.5	24.2	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
2013年	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com